

地域・在宅看護論実習
実習指導要項

地域・在宅看護論実習

1 実習のねがい

日本では、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行し、団塊の世代が75歳以上となる2025年以降は、国民の医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれている。社会保障制度の維持のため、医療制度改革においては、病院から在宅への円滑な移行と、医療および介護への継続を重視している。医療における「地域」や「在宅」の重要性は大きくなっており、基礎看護教育でも地域・在宅看護についての理解と実践を求められている。

そのため、地域や在宅で療養者を支えるためのケアや多職種との連携、施設内看護と在宅をつなぐ退院支援・継続看護など、在宅看護の果たす役割はますます重要となっている。そこで、地域・在宅看護論実習では、暮らし・生活の視点から地域の中にある看護を理解し、学んだ看護を実践するために必要な知識や技術を使って地域・在宅における看護実践を体験し、実際に行われているケアの意味を考え、地域・在宅看護とは何かを考えられるようにしたい。

地域・在宅看護論では、全年代の対象と家族の主体とニーズを理解し、対象者の健康観を支える看護を見出し、そこに関わる職種の多様性や連携、継続的な医療・福祉などの関わりから、人と地域の特性からどのように看護が存在し提供されているかを深めていくことが求められる。よって、その人らしい暮らし・生活・健康に向けて、様々な人やサービスを利用しながらセルフケアしている人々に関わることが求められる。実習では、医療だけではなく地域にある様々な場での看護を体験する中で、多職種の活動にも触れ、専門職者が協働することで支えられている対象者の生活を見ることもできるようにしたい。

近年、社会的現状や看護に求められる姿などから、看護基礎教育では、地域・在宅看護論は2022年度から基礎分野に位置づけられた。臨地では、実際の専門職の活動に触れるだけでなく、地域住民との関わりを大切にさせたい。よって、1年次からの地域・在宅看護論実習を開始する。1年次の11月と3年次の5月から11月に行われる実習であり、初めての施設での実習や緊張感が強くみられる可能性がある。実習時期によっては、十分な広い視野で知識を統合しながら看護を考えることは難しい。そこで、学生が感じていることや疑問に思っているものを引き出しながら、場面を丁寧にみる事を促し、その場面にあらわれている看護者の関わりの意味を考えられるよう助言し、自らの考えを確認する行動がとれるように促したい。

<実習目的>

地域看護活動を通して、地域で生活する人々の健康上の問題と関連する諸問題を理解し、看護の機能と役割を学ぶ。

地域・在宅看護論実習 I

<実習目標>

1. 地域・在宅看護活動を通して、「暮らし」が理解できる。
2. 地域・在宅看護活動を通して、暮らしが健康に与える影響を理解する。
3. 地域・在宅看護活動を通して、対象が活用・利用している社会制度やサポートがわかる。

<評価規準> (目指す姿)

1. 地域の対象の暮らし・思いがわかる。
2. 地域で暮らしている対象の人との関わり・つながりについて理解できる。
3. 地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートがわかる。
4. 地域での活動で、倫理的規範を持って行動できる。

2. 実習内容・学習方法と指導方法

学習活動	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
地域の対象の暮らしがわかる。	地域・在宅看護論演習や事前学習などを参考に、実習の施設の機能や場所について調べる。また、地域の特性や利用者の特性も調べる。対象や職員と実習を通して関わり、その方の「暮らし」や日々の時間の使い方などを聞くことができるようにしたい。自分との生活との比較や、相違などを見つけれられる機会としたい。	暮らしの中で対象のライフスタイル・時間の使い方や人間関係を対象から聞くことができ、自己の言葉で表現できる。	・事前学習 ・ポートフォリオ ・看護記録 ・面談 ・Map	・地域・在宅看護論ポートフォリオファイルに演習や事前学習まとめたことなどをファイリングすることや、目印をつけ、すぐに活用できるように指導する。 ・「暮らしとは」を考える機会を持てるようにする。 ・施設職員と連携をし、学生が対象とコミュニケーションが取れるようにする。 ・事前オリエンテーションを受けられるようにし、施設での暮らしと自宅での暮らしの相違も理解できるようにする。
地域で暮らしている対象の人との関わり・つながりについて理解できる。	地域で暮らす対象は、様々な人や制度を活用し暮らしている。その、関わる人(家族・施設職員・地域の人など)と対象者のつながりを知り、そのつながりの意味を理解することで、地域における「公助・自助・共助」がみえてくると考える。	地域でのその人や地域の取り組みから様々な人とのつながりが理解できる。	・ポートフォリオ ・事前学習 ・看護記録 ・面談	・実際の現場にて、地域の中の施設の役割や利用者のニーズなどが把握しているかなどを指導者・担当者や教員から質問し、学生の理解について深める視点を刺激する。 ・実際の現場で実践的に実習ができるように、学生自身の体調管理や認識を実習前や実習中も確認していく。 ・学生が指導者・担当者や利用者とのコミュニケーションが取れる様に、事前のオリエンテーションや施設利用者の特徴などを学生がイメージできるように関わる
地域で暮らしている対象が活	人と人とのつながり、人と制度・サポートのつながりが見え、理解できる機会としたい。	地域で暮らす対象が活用する制		

用・利用している制度やサポートがわかる。		度やサポートを調べ、指導者に質問をし、対象の暮らしの中の必要性がわかる。	・ Map	<ul style="list-style-type: none"> 施設の看護師や専門職から地域・在宅看護に対する思いなどを直接聞けるように教員は事前に依頼を行う。学生が、様々な看護観、地域・在宅看護の考え方に触れられるように調整を行う。 対象の活用している制度やサポートについて指導者から説明を受けられるように調整をし、学生も質問が出来るように事前学習・事後学習を行うように指導する。
地域での活動で倫理的規範を持って行動できる。	<p>実習の場にあった身だしなみや行動(以下の内容)がとれるように関わり、学生が「倫理」について考える機会としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設事業にあった服装・身だしなみを整えること、それを行う意味について考える。 個人情報の取り扱いについて知識と行動で表現する。また、施設での個人情報の取り扱いについて質問を行う。 自分のPCなどを使用し、教科書や資料の確認を行うが、適切な場所での使用や、使用場所について指導者・担当者に確認を行う。 休憩や体調不良時の休息など実習中の自分の所在について、指導者・担当者に報告・連絡・相談を行う。 	挨拶・時間管理・コミュニケーション・記録の取り扱いが適切にでき、適時、相談・報告が施設担当者・教員や学生同士で行える。	<ul style="list-style-type: none"> 看護記録 面談 	<ul style="list-style-type: none"> 教員は事前に施設と服装や持参物品などの確認を行い、学生に具体的に説明する。 教員は、実習中に施設指導者・担当者から学生の実習中の様子や気づいた点、改善点などを共有し、学生への指導や教員間での共有を行い、改善または学生への説明・指導を行う。 個人情報の取り扱いについて、教員は学生と共に事例演習を行い、厳守する理由を説明する。

3. ねらい・学生の動きと指導方法

時間	場所	ねらい	学生の動き	指導方法
8:30	各実習場所	<ul style="list-style-type: none"> 地域で生活する人々の生活を支援するための事業の実際を知り、自分の動きをイメージする。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設オリエンテーションを受ける。 指導・担当者による施設の特徴、職員構成、サポート体制、施設業務の流れと学生の動きの説明を受ける。 事前学習と説明を聞き、質問等があった場合に、解決できるように行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めての地域・在宅での実習であることから、学生オリエンテーションについて事前に、担当教員と指導者・担当者と調整を行う。 学生の緊張感が高いと考えられるため、事前学習(施設や連絡など)を学生と行い、学生が「初めての施設」から「知っている施設」になるように演習を行う。

<p>～ 16:15</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・地域での暮らしや暮らしをサポートする様々な場を実際に訪問・事業体験をし、暮らしの中の「支え」を理解する。 ・関わりの中から、地域で生活する人々の健康状態、生活環境を知る。 ・事業の中での看護師・専門職の活動の実際を知り、看護の役割について考える。 ・ミーティングや振り返りを行い、疑問や体験を意味付ける。 	<p>実習場所のスタッフとともに行動し、地域の人々の「暮らし」から保健・福祉の意義と看護の役割について考える。</p> <p>実習指導者・担当者や利用者とのコミュニケーションをとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習目標を明確にし、コミュニケーションを行いながら、目標達成に向けて主体的に行動する。 ・指導者・担当者に感じたこと・疑問に思ったことを表現する。 ・指導者・担当者より、コミュニケーションや援助の目的や理由についての説明を聞く。 <p>ミーティングや振り返りを行い、疑問や体験を指導者・担当者について、学びを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者・担当者に振り返りの時間を取ってもらえるように、事前(朝または昼までに)学生から調整を行う。 ・実習人数が1人～6人と人数に差があるため、カンファレンス・ミーティングは実習場所によって調整を行う。例：5人いる実習場所は、司会・書記を決め、役割理解を行う。など… ・同じ気づきがあったメンバーは意見を伝える。 ・メンバーの意見を傾聴する。 ・メンバーの意見を受けて自分の意見を伝える <p>実習記録を翌日に指導者・担当者へ提出をし、アドバイスをもらえるように調整をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の出欠について、指導者・担当者に報告ができるように調整を行う。欠席の場合は、学校(または教員)・グループメンバーと施設に連絡・報告ができるように指導を行う。 ・指導者・担当者に目標・自己紹介を行えるように学生と調整を行う。 ・施設オリエンテーションの時に、施設・利用者概要などの説明をしてもらえるように教員は調整を行う。(禁止・注意事項は必ず施設の方から伝えてもらう) ・指導者・担当者・教員も参加し、場面の具体化や知識と気づきの関連づける助言をする。 ・教員は、実習中は、学生の気づきや思いを引き出せるように関わり、ミーティングや振り返りに向けての学生の準備をサポートする。 ・前半実習と後半実習の間の演習にて、実習の学びのまとめを行い、学生の学び・気づきの意味付けを深め、グループメンバーと共有できるように関わる。
--------------------	--	--	--	---

学習活動	具体的な評価規準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一步努力を要する
地域の対象の暮らし・思いがわかる。	暮らしの中で対象のライフスタイル・時間の使い方や人間関係を知り、自己の言葉で表現できる。	対象理解 探求心	事前学習 在宅看護記録 面談	暮らしを営んでいる対象のライフスタイル（生活様式・方法・人生観・価値観・習慣などを含めた対象の背景や生き方）・時間の使い方や人間関係についての思いを対象の様子から知り、まとめを自己の言葉で表現できる。(30)	暮らしを営んでいる対象のライフスタイル（生活様式・方法・人生観・価値観・習慣などを含めた対象の背景や生き方）・時間の使い方や人間関係についての思いを対象の様子から知り、記載できる。(20)	暮らしを営んでいる対象のライフスタイル・時間の使い方について対象の様子から知り、記載している。(10)	暮らしを営んでいる対象の思いを表現している。(5)
地域で暮らしている対象の人との関わり・つながりについて理解できる。	地域でその人や地域での取り組みから様々な人とのつながりが理解できる。	対象理解 探求心	事前学習 在宅看護記録 カンファレンス	家族との関係や家族以外の人とのつながり、地域とのつながりがわかり、具体例を挙げながら表現している。(20)	家族との関係や家族以外とのつながり、地域とのつながりがわかり、表現している。(15)	家族との関係や家族以外とのつながりがわかり、表現している。(10)	地域で暮らしている対象の人とのつながりを表現している。(5)
地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートがわかる。	地域で暮らす対象が活用する制度やサポートを調べ、対象の暮らしの中の必要性がわかる	対象理解 実践力 倫理観	在宅看護記録 カンファレンス 面談	地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートについて自ら調べ、また指導者に質問をし、対象の暮らしにおける必要性がわかる。(20)	地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートについて調べることができ、対象にとっての必要性がわかる。(15)	地域で暮らしている対象が活用・利用している制度やサポートについて調べることができる。(10)	地域で暮らす対象が何かしらのサポートを使っているのがわかる。(5)
地域での活動で倫理的規範を持って行動できる	挨拶・時間管理・コミュニケーション・記録の取り扱いができ、相談・報告が施設担当者・教員や学生同士で行える。	調整力 探求心 倫理観	在宅看護記録 カンファレンス レポート 面談 実習態度	各施設で、挨拶・時間管理・コミュニケーション・記録の取り扱いなどが適切にでき、適時、相談・報告が施設担当者・教員や学生同士で行っている。(30)	各施設で、挨拶・時間管理・コミュニケーション・記録の取り扱いなどが適切にでき、適時、相談・報告が誰かしらに行っている。(20)	各施設で、挨拶・時間管理・コミュニケーション・記録の取り扱いなどが適切にできる。(10)	各施設で、挨拶・時間管理・コミュニケーション・記録の取り扱いなどができず、看護の対象や仲間を危険に曝している。(0)

実習指導者助言

欠課時間数
() 時間 / 90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

実習指導者サイン

担当教員サイン

地域・在宅看護論実習Ⅱ

<実習目標>

1. 地域・在宅看護活動を通して、暮らしが健康に与える影響を理解する。
2. 地域・在宅看護活動を通して、対象が活用・利用している社会制度やサポートがわかる。
3. 地域・在宅での暮らしにおける看護の役割がわかる。
4. 地域・在宅看護活動を通して、地域でくらししている対象を支える社会制度やそこに関わる多職種連携・協働がわかる。
5. 地域・在宅看護から、対象の主体性やニーズが理解でき、継続看護についてわかる。

<評価基準> (目指す姿)

1. 対象が利用している社会資源の法制度・根拠を説明でき、状況の変化に応じて必要な社会資源を表現している。
2. 対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから、多職種連携の共同目標と協働が対象の生活を支えることがわかる。
3. 対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし、共同目標の中で生活を支える看護の方向性が表現できる。
4. 様々な場での看護の特徴・機能や対象から地域における継続看護・看護の役割について多角的に理解し、表現する。

1. 実習内容・学習方法と指導方法

1) 実習場所 訪問看護ステーション実習

①9時間×5日

学習活動	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
対象が利用している社会資源の説明ができる。	事前学習を基本に、地域・在宅看護論実習の施設場所について調べる。訪問看護ステーションで、対象が利用している社会資源を下記の内容で深めさせたい。対象の状況に応じて、変わっていく社会資源を法制度や保険制度の視点で深め、対象を中心に支えるケアや制度を包括的に理解していく機会としたい。 <訪問看護ステーション> 訪問看護ステーションの機能と役割、 1) 訪問看護ステーションの概要、 訪問看護ステーションの機能と役割 ・介護保険法、その他の保険制度 ・訪問看護のサービス機関と対象者	社会資源を法制度などから理解し、その人に必要なケアをマネジメントできる。	・事前学習 ・看護記録 I～VI ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)	・訪問看護が、どのような保険によって実施されているのか (介護保険・医療保険による訪問か) を理解できるよう説明する。 ・訪問看護ステーションの特徴 (設置主体や機能、他施設の併設など)、訪問時の留意点などを説明する。 ・看護師配置や多職種 (他職種) との連携についての説明 ・対象の概要と地域の特徴などの説明をする。 ・各訪問看護ステーションで、訪問看護ステーションの概要、業務などについてのオリエンテーションを行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーションの目的と看護内容 ・訪問看護ステーションの経営 			
対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる	<p>訪問看護ステーション実習では、看護師や各職種が対象の生活を支えるべく、協働・連携している。同じ施設内・他施設内など地域で暮らす対象を支えるために、職種・施設の連携・協働がどのように行われているかを学ぶ機会としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護に必要な連携機関 ・関連職種の役割、援助内容 ・訪問看護ステーションと病院・他機関との連絡方法 ・訪問看護ステーションと病院・他機関との連携 ・訪問看護ステーションと病院・他機関との目標共有方法と支援 ・対象を取り巻く地域や家庭の特性、生活の状態 ・連携シートやケアプランの確認 ・多職種と看護師との関わりや、他職種から求められる看護師像や、看護に対する思い 	社会資源や地域の取り組みから生活を支える包括的な地域の支援がわかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・看護記録 I～VI ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map) 	<ul style="list-style-type: none"> ・療養者と家族の療養生活を支えるために、訪問ケースにはどのような関係職種が関わっているのか、どのように調整を図っているのかなど、必要があれば場面を提供し、連携の実際を理解できるよう促しや説明を行う。 ・自宅への訪問だけではなく、病院での退院前カンファレンスや介護付き高齢者向け住宅などへの訪問など、訪問看護ステーションとして関われる場への同行が可能であれば同行させていただき、看護職と看護職の連携や多職種との連携・カンファレンスの持ち方などを体験できるようにする。 ・ケアプランの目標と看護目標との考え方について関連職種の役割や、療養者が利用している社会資源の内容や関連職種の役割、連携の実際を体験できるようにし、また、これらの説明も行う。
対象を主体としたニーズ・支援とその生活を支える看護について理解する。	<p>在宅で生活・療養をしている対象の支援と看護について理解を深めていきたい。実習の中で、対象の主体性とニーズをどのように看護を行い支援しているのかを学ぶ機会としたい。学生は、疑問に感じたことなどは主体的に看護師や施設職員に聞き、理解を深めていくことが必要になる。また、対象を支え、ニーズにあった看護・医療技術も多く学べる機会としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者が主体として考える看護 ・対象者が在宅療養または在宅での生活を過ごすことに対する希望やニーズ ・対象者の自己決定における看護師の役割 ・在宅看護における家族への影響 ・対象の日常生活援助技術と医療処置に伴う看護技術 日常生活技術：食事、睡眠、排泄、移動、環境、服装、 	対象者の生活を主体とした看護のニーズ・支援や多様な価値観についてわかる	<ul style="list-style-type: none"> ・看護記録 I～VI ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map) 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問ケースについて、療養生活の概要、抱える問題点、看護方針、今回の訪問での看護のポイントなどを説明し、学生の理解を確認する。 ・訪問後に、学生が感じ考えたことから、実施した看護は、どのような目的で、どのような点に注意して実施されたのか、その時の看護師の思いなども含めて説明する。学生が、療養者の健康障害の特徴と療養者の健康障害がもたらす生活上の問題や必要な看護、家族による介護の実際と介護負担の有無や家族への影響の実際と家族が求めている看護の在り方や支援などについて考えられるようにする。 ・看護師からの説明や質問、療養者や家族との関わりを通して、療養者の健康障害の特徴と療養者の健康障害がもたらす生活上の問題を知り、対象に必要な看護について考える。また、家族による介護の実際と介護負担の有無や家族

	<p>更衣、入浴、レクリエーションなど 医療処置に伴う看護技術：褥瘡ケア、経管栄養、膀胱留置カテーテルの管理、膀胱洗浄、在宅酸素療法、在宅中心静脈栄養、吸引、排便、浣腸、気管カニューレなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象に対する指導技術（教育技術・相談技術） ・対象者への関わり・配慮 			<p>への影響を知り、家族が求めている看護や支援の在り方について考える機会であるため、場の設定や説明を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問時に行なわれている日常生活援助技術や医療処置に伴う看護技術の実際を見学・援助を行うため、説明や技術の確認をする。 ・看護師・学生の訪問態度やコミュニケーションの実際から、訪問時に注意すべきマナーや訪問者としての態度、主体である対象への配慮、看護師のあり方について考える機会とするため、発問や説明を行う。
<p>継続看護について多角的な視点を持ち、考えを深めている。</p>	<p>実習で、訪問看護の役割を考えることが必要となる。在宅の場では医療職・看護職が常時、対象の側にいることはない。そのような中で、対象の状態をどう把握し、訪問時に看護を提供しているかを学ぶこと継続看護に対する考えが深まる機会としたい。また、在宅では対象に多くの職種が関わっている。看護師だけでは対象を支えることはできない。そこにある看護師の役割、看護師間の情報共有などを考え・学ぶことで「継続看護とは」を深めることができるようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師間の情報共有方法について ・看護の特徴と機能 ・看護師の役割と実習施設以外からみた訪問看護の役割 ・看護の対象と特徴 	<p>各施設での看護の特徴・機能・対象から多角的な視点から継続看護・看護について理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・看護記録 I～VI ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map) ・レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問していない時や次回を予測するなど、連続した看護提供ではない訪問看護の考え方（対象に対する継続看護と緊急時などの考え方）を、対象の背景（疾患・予後を含む）やケアプランなどから考えられるような投げかけをする。 ・必要に応じて、看護師にケースの状況、看護師の意図や思いを一緒に確認する。 ・施設間での情報交換（退院時シートやケアプランなど）の実際と説明を対象患者の状況と共に行う。 ・訪問看護師に同行して自分がとらえた在宅療養者の対象像や療養上の問題、訪問看護師の看護実践の意図、訪問看護師の役割などについて学んだことを発表し、指導・助言を受け、体験の振り返りや意味づけ、課題発見の機会とする。

②. 訪問看護ステーション実習 ねらいと学生の動き

実習日	実習場所	ねらい	学生の動き
8:30	各訪問看護ステーション	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーションの機能・役割や対象と家族への看護から、看護師と対象・家族の連携の実際、社会資源の提供の実際、関連職種との連携の実際を知る。 ・在宅での実践的な看護技術を体験し、看 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前日：実習場所へ事前連絡をグループごとに行い、実習に備える。 ・1日目：訪問看護ステーションの施設や環境やオリエンテーションなどを通して理解する。 ・1日目～5日目まで 訪問同行開始。午前・午後の訪問時間や内容（利用者情報など）を確認し同行の準備を行う。同行時、対象や家族、行われている看護についてなど、積極的に看護師または同

～ 16:15	<p>護技術の根拠や応用などを体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退院前カンファレンスなどに参加をし、病院・病棟看護と地域・在宅との連携の実際や、多職種連携と継続看護の実際を知る。 	<p>行者に質問をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3日目：訪問看護ステーションごと中間カンファレンスと行う。カンファレンスを通して、看護過程の対象の理解を深め、後半の実習に向けての目標を見出す。 ・5日目：最終カンファレンスを行う。実習での学びや、看護過程の対象から見えてきた地域・在宅看護について話し合う。
------------	---	--

カンファレンス

- ・各訪問看護ステーションでカンファレンスを実施する。
- ・実習中間（2～3日目）と最終日の予定で実施予定。日時については、所長または指導者と実習初日または2日までに打ち合わせをする。
- ・カンファレンスにおいては、学生の学びを確認して不足部分を補い、学習内容が達成できるように、学生自身が、観察の視点や学びを次の訪問時やまとめに活かそうと気づけるよう促す。また、学生が、療養生活を支える訪問看護の役割を考えることができるよう、訪問看護についての考えを伝える。
- ・訪問の実際は、訪問看護記録に記述しまとめ、訪問看護記録は、翌日朝、各訪問看護ステーションの所長または指導者の指示を仰ぐ。

看護過程の展開

- ・訪問した1ケースを事例としてあげ、看護問題まで明確化するプロセスの中で、在宅における情報収集やアセスメントの特徴、問題点やめざす生活像などについて考えを深める。

2) 実習場所 保健福祉センター実習

<ねらい・具体的な行動>

1. 保健福祉センターの機能と役割が説明できる。
2. 地域で生活する人々の健康状況、生活環境を知る。
3. 健康の回復、保持、増進、疾病予防のために行われている事業の実際に参加し、各事業の意義・目的を述べることができる。
4. 地域保健事業に参加する住民との関わりを通して、地域住民の健康の保持・増進への取り組みを知る。
5. 保健福祉センターで行われている事業に関わる関連職種の活動の実際・役割を知る。
6. 保健師の活動の実際から、地域における健康を守るための看護の役割について考える。

①2時間×1日（見学実習） 9時間×2日 合計20時間

学習活動	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
対象が利用している社会資	事前学習と見学実習時の学保健福祉センターの機能や役割から知識を増やしていく。また、実際に	社会資源を法制度などから	・事前学習 ・看護記録	<保健福祉センター見学実習> 保健師より、以下の内容について説明し、実習時に実際に参加

<p>源の説明ができる。</p>	<p>実習を行った事業で、対象が利用している社会資源を下記の内容で深めていく。対象の状況に応じて、変化させていく社会資源を法制度や保険制度の視点で深め、対象を中心に支えるケアや制度を包括的に理解する機会としたい。</p> <p><保健福祉センター></p> <p>1) 保健福祉センターの機能と役割、対象の特徴と業務内容</p> <p>2) 保健福祉センターの施設見学</p> <p>3) 各種事業 母子保健事業とその概要、予防接種事業 成人保健事業、栄養指導事業など</p> <p>3) 関係法律 ・地域保健法、母子保健法、健康増進法、高齢者の医療の確保に関する法律</p> <p>4) 関係する国の施策 ・健康日本21、ゴールドプラン21、エンゼルプラン ・障害者プラン</p> <p>6) その他の健康に関する法律 ・予防接種法、感染症法</p> <p>7) 地域特性</p>	<p>理解し、その人に必要なケアをマネジメントできる。</p>	<p>VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)</p>	<p>する事業についての理解や準備を助ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉センターの役割、市町村保健福祉センターの組織と機能、市町村保健福祉センターの設置目的と業務内容、地域保健事業の概要、保健師の役割と活動内容、管轄地域の概況と特性、地域住民の健康状況、保健福祉センターで勤務する職種と役割 ・保健福祉センターの構造・配置や実習上の留意事項を説明し、実習時の施設の利用や自らの行動についてイメージできるようにする。 <p><実習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に参加する事業について、学生は事前学習などから再度、調べてきます。事業内容についての説明を法制度との関連を含めて説明・質問を学生にすることで理解が深まるように関わる。 ・その事業だけではなく、対象を支える事業や法制度についても説明することで包括的な社会資源が理解できるようにする。
<p>対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる</p>	<p>保健福祉センターでは小児から高齢者まで幅広い事業と保健師の関わりと多くの職種や地域住民との協働があり、各職種が対象の生活を支えるべく、協働・連携している。その連携・協働のための方法や保健師（看護として）はどのようにコミュニケーションをとって、チームの一員として活動しているかなどを学ぶことで目標に近づけることを意識させ、学びの場としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連職種の役割、援助内容 	<p>社会資源や地域の取り組みから生活を支える包括的な地域の支援がわかる。</p>	<p>・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)</p>	<p>・保健福祉センターで協働している職種と役割について説明を受けることで、多職種連携に対する考えが以下の内容を中心に深まるようにする。また、実際の活動内容などから説明をし、学生の理解を深める。</p> <p>主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的を意識しながら、保健師の意図的な関わりや地域住民の反応を観察し、看護の意味を考え・深める。 ・地域保健事業に参加する住民との関わりを通して、人々の健康への関心や生活上の問題などを知る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・病院・施設や地域住民間での連絡方法 ・病院・施設や地域住民間での連携の在り方 ・病院・施設や地域住民間の目標共有方法と支援 ・対象を取り巻く地域や家庭の特性、生活の状態 ・多職種と看護師・保健師との関わりや、他職種からみた看護師・保健師像 			<ul style="list-style-type: none"> ・事業に参加している関係職種の活動を見学し、関係する職種それぞれの役割と、連携について考える。 ・健康教育やレクリエーション等を実施する場合は、事業の目的・対象者の状況に合わせて実施できるよう、保健師の指導をいただきながら、実施内容・使用媒体の検討をする。
対象を主体としたニーズ・支援とその生活を支える看護について理解する。	<p>在宅で生活・療養をしている対象の支援と看護について理解を深める。実習内で母性から高齢者など参加事業も多様であり、対象の主体性とニーズをどのように看護をして支援しているのかを学ぶ機会としたい。学生は主体的に保健師や関連職員に、疑問に感じたことなどは聞き、理解を深めていく機会にもしたい。また、対象を支えニーズにあった指導・教育技術も学べ機会になっている。</p> <p>技術の事前学習や積極的な質問や関わりを行うことでより学びが深まるようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象が主体として考える看護・保健活動（健康の回復・保持・増進・予防） ・対象が在宅療養または在宅での生活を過ごすことに対する希望やニーズ ・対象の自己決定における看護師・保健師の役割 ・在宅看護における家族への影響 ・対象に対する指導技術（教育技術・相談技術） ・対象への関わり・配慮 	対象者の生活を主体とした看護のニーズ・支援や多様な価値観についてわかる	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師と事業に同行し、対象と実際に関わり、保健師との関わりを見学することで、対象のニーズやその方を支える関わりについて理解を深める機会にしたい。 ・関わる利用者の、望みや問題点などを意識しながらかかわれるよう、状況に応じて抱える問題や利用者の特徴などを伝える。
継続看護について多角的な視点を持ち、考えを深めている。	<p>様々な事業に参加し実習を行う中、保健活動での看護の役割を考えることが必要となる。健康の概念が多様化している中、対象の発達課題や生活背景をアセスメントし、どのように保健・看護活動を行っていくかを学ぶ機会としたい。在宅の生活では、予防的な関わりも重要になる。問題が表出している方だけの関わりではなく、対象の状</p>	各施設での看護の特徴・機能・対象から多角的な視点から継続看護・看護について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する事業について、目的・参加者の概要・地域特性・保健師としての関わりポイント、などを伝える。 ・事業参加時の服装、持ち物、適切な態度などについて、学生自らが確認できるよう指示する。 ・目的理解の程度や、体験した場面の中で気になったこと、感じたこと、疑問点などを引き出し、内容について補足する。 ・地域の健康を守るための関係専門職種について、役割や協働

	<p>況や背景などを包括的にアセスメントし、今後起こりうることにも関わっていく必要を学べる機会にしたい。</p> <p>このような関わりから、看護の役割、多職種間の情報共有などを考え・学ぶことで継続看護とはを深めていかせたい。</p> <p><保健福祉センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象情報 ・事業参加の結果とその後の経過について ・連携先の多様性 		(Map)	<p>の実際を伝え、場面を共有できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業などで、住民への関わりなどに不十分な点があれば、関わりのポイントなどを伝え、学生が積極的に行動できるよう促す。 ・カンファレンスで、各事業の特徴や対象などからの学びをディスカッションし、参加していない事業に対する知識を深める。不足している事のアドバイスをを行い、学びを深めるようにする。
--	--	--	-------	--

2. 保健福祉センター実習 学生の動き

実習日	実習場所	ねらい	学生の動き
0T	保健福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある保健福祉センターの役割について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉センターで行われる、見学実習に参加する。 ・保健福祉センターの保健師から清水区の地域特性や「成人保健・高齢者保健・母子保健」の特徴などの講義をしてもらい、地域保健について理解する。 ・実習での注意点などの説明を受ける。
8:30 ～ 16:15	保健福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉センターの機能・役割や対象と家族への看護から、地域における圏創造新や予防の視点を中心とした保健師・看護師と対象・家族の連携の実際、社会資源の提供の実際、関連職種との連携の実際を知る。 ・様々な事業に参加をし、病院・病棟看護と地域・在宅との連携の実際や、多職種連携と継続看護の実際を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2日間を通して2事業/日に参加をする。(午前・午後1事業ずつ) 朝礼後、参加事業担当保健師と時間や持ち物について調整を行う。疑問・質問は各自で積極的に行動する。 15:30頃からカンファレンスを行う。 カンファレンステーマ「事業での体験を通して、地域にある健康問題と看護の役割を考える」

カンファレンスについて

カンファレンスで、学習内容が達成できるように、各事業の特徴や対象などからの学びをディスカッションし、参加していない事業に対する知識を深める。不足している事のアドバイスをを行い、学びを深められるようにする。

3) 実習場所 地域連携実習 9時間×2日

学習活動	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
対象が利用している社会資源の説明ができる。	事前学習を基本に、地域福祉・連携事業実習の施設場所について調べる。実際に実習を行った施設で、対象が利用している社会資源を下記の内容で深める。対象の状況に応じて、変わっていく社会資源を法制度や保険制度の視点で深め、対象を中心に支えるケアや制度を包括的に理解させたい。	社会資源を法制度などから理解し、その人に必要なケアをマネジメントできる。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)	<各施設> ・2日間で、学生が様々な施設で実習を行う。各施設で、施設の特徴、設置主体、法制度・機能などの確認・説明をすることで、施設・機能理解が深まるように関わる。法制度（障害者自立支援法など）や目的などからの視点や活用している法制度の実際からの対象がみえくるようにする。 ・グループで、見学や説明を受けた内容についてディスカッションさせ、地域の福祉・地域にある支援制度・社会資源、などについての感想・学びを共有できるようにする。
対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる	様々な施設では多職種がおり、各職種が対象の生活を支えるべく、協働・連携している。同じ施設内・他施設内など地域で暮らす対象を支えるために、職種・施設の連携・協働がどのように行われているかを学ぶ機会としたい。	社会資源や地域の取り組みから生活を支える包括的な地域の支援がわかる。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)	・施設で働いている職種（地域住民の方も含む）、それぞれの役割・協働について、それらの職種が協働している実際の場面を体験させ、目的や連携について説明・質問をする。 ・他施設を利用している対象との関わりでは、施設間での情報交換や目標共有についての説明を行うことで、多職種連携・看看護連携について考えを深められるようにする。 ・全員が同じ実習場所で行う実習ではありません。行かない実習場所や事業もあります。情報共有やカンファレンスなどで、積極的に質問や意見を出し合い、お互いの実習場所や特徴などの理解につなげるカンファレンスや共同学習を行う。
対象を主体としたニーズ・支援とその生活を支える看護について理解する。	在宅で生活・療養をしている対象の支援と看護について理解を深めていく。実習は、1日ごと違う実習場所となっている。その中で、対象の主体性とニーズをどのように看護・支援しているのかを学ぶ機会としたい。学生は、疑問に感じたことなどはそのままにせず、積極的に看護師や施設職員に聞き、理解を深めていくこと求められる。また、対象を支える・ニーズにあった看護・医療技術も学べる機会としたい。技術の事前学習や積極的な	対象者の生活を主体とした看護のニーズ・支援や多様な価値観についてわかる	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)	・看護師または指導者に同行し、在宅における対象の健康状態の把握や生活援助を、実際に行う。 ・利用者の、望みや問題点などを意識しながらかわられるよう、状況に応じて抱える問題や利用者の特徴などをカルテや説明する。 ・実習学生が直接、対象と関わり、会話できるようすることで配慮することで、対象のニーズや目的を対象側から理解できるようにする。そして、事業側の意図や周囲の思いも教えてもらうことで、「ニーズ」と「主体的」をどう考えていくかを学

	質問や関わりを行うことでより学びが深まる機会としたい。			<ul style="list-style-type: none"> ・べるようにする。 ・看護師や指導者の対象に対する意図的な関わりを学生にみせ、投げかけることで、看護師の支援方法の多様性や価値観を尊重する関わりがわかるようにする。 ・実践の際には、関わる利用者ごとの注意点などを伝え、安全・安楽な援助になるようにする。また、学生自身が、安全・安楽を意識できるようにする。
継続看護について多角的な視点を持ち、考えを深めている。	様々な施設に実習を行う中、そこにある看護の役割を考えることが必要となる。多職種と看護が関わっている利用者は多くおり、どのように看護師が環境が違う中で看護を継続しているか、他職種からみた看護の役割とは、を考え看護の役割や意味を考えることが必要となる。違う場の看護と看護をどう繋ぐかを考え、対象の継続的看護を視点として考える機会としたい。	各施設での看護の特徴・機能・対象から多角的な視点から継続看護・看護について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map) ・レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設を利用している対象との関わりでは、施設間での情報交換や目標共有についての説明を行うことで、看看連携の考えを深め、継続看護について理解できる場や発問を行う。 ・医療としての看護に関わりが無い場合でも、ケアやサポートの視点から対象に対する看護を考えられるようにする。 ・看護師や指導者の看護や対象を支える考え方を学生に伝えることで学生の視野が広がり、多角的に考えられるようにする。 ・カンファレンスで、実習の特徴や対象などからの学びを伝え、指導者・教員は不足している事のアドバイスや知識の確認を行い、学びを深めるようにする。

カンファレンスについて

カンファレンスで、学習内容が達成できるように、各施設で、振り返りやカンファレンスを実施する。テーマは「実習での学び、考えたこと」を中心に行う。

地域福祉・連携事業実習の実習場所詳細 下記実習場所の2か所で実習を行う。

①<地域医療支援室実習>

i. 学習内容・方法と指導方法 9時間×1日

学習活動	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
対象が利用している社会資源の説明ができる。	事前学習で地域医療支援室について調べる。対象が利用している社会資源を下記の内容で深める。対象の状況に応じて、変わっていく社会資源を法制度や保険制度の視点で深め、対象を中心に支えるケアや制度を包括的に理解する機会としたい。	社会資源を法制度などから理解し、その人に必要なケアをマネジメ	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習を活用し、地域医療連携室について調べ、役割がわかるような質問や資料を提示する。 ・MSW や看護師より、実際に病院での活用している社会福祉制度や、地域医療支援室の機能・役割について説明をうけ、実際に同行することでより知識を深めていけるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の健康状態 ・施設の設置主体・目的・法制度・機能と役割 ・施設の対象者の特徴と業務内容 	<p>ントできる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・面談 ・まとめ (Map) 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義や同行での学びを関連する知識に基づいてまとめ、社会福祉制度や退院支援についての理解につなげていく。 ・学生へ、同行したケースに対する社会資源についての質問を行い、意味づけを行う。
<p>対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる</p>	<p>地域支援医療室では多職種があり、各職種が対象の生活を支えるべく、協働・連携している。同じ施設内・他施設内など地域で暮らす対象を支えるために、職種・施設の連携・協働がどのように行われているかを学ぶ機会としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護に必要な連携機関 ・関連職種の役割、援助内容 ・病院・施設や地域住民間での連絡方法・連携の在り方・標共有方法と支援 ・対象を取り巻く地域や家庭の特性、生活の状態 ・連携シートやケアプランの確認 ・多職種と看護師との関わりや、他職種からみた看護師像や、看護に対する思い 	<p>社会資源や地域の取り組みから生活を支える包括的な地域の支援がわかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map) 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な職種が協働している地域医療支援室で、実際に看護師や MSW と共に対象の元へ同行し、関わりを見学する。病棟看護師との連携の様子や、他施設の医療職との関わりを体験させ、連携・協働の実際を説明する。 ・入院前から対象の不安に対応し、安心した入生生活や退院後の生活が送れるようにどのように多職種が連携し、関わっているかを説明する。 ・他施設を利用している対象との関わりでは、施設間での情報交換や目標共有についての説明を行うことで、多職種連携・看看連携について考えを深められるようにする。 ・様々な同行をさせて頂く実習です。情報共有やカンファレンスなどで、積極的に質問や意見を出し合い、お互いの同行内容や特徴などの理解につなげていけるように関わる。
<p>対象を主体としたニーズ・支援とその生活を支える看護について理解する。</p>	<p>病院から在宅や次の生活の場・療養を検討している対象の支援と看護について理解を深めていく。その中で、対象が主体性とニーズをどのように看護をして支援しているのかを学ぶ機会としたい。そのためには、学生は疑問に感じたことなどはそのままにせず、積極的に看護師や職員に聞き、理解を深めることを学生に伝えてある。学生の疑問にヒントや答えなどの対応をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象が主体として考える看護 ・対象が在宅療養または在宅での生活を過ごすことに対する希望やニーズ ・対象の自己決定における看護師の役割 ・在宅看護における家族への影響 ・対象に対する指導技術（教育技術・相談技術） 	<p>対象者の生活を主体とした看護のニーズ・支援や多様な価値観についてわかる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map) 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師または MSW に同行し、対象の健康状態の把握や生活援助を、実際に見学させ、援助を説明する。 ・利用者の、ニーズ・望みや問題点などを意識しながら関わられるように、状況に応じて抱える問題や利用者の特徴などをカルテや説明する。 ・実習学生が、対象と関わられるように配慮することで、対象のニーズや目的を対象側から理解できるようにする。そして、事業側の意図や周囲の思いも教えてもらうことで、「ニーズ」と「主体的」をどう考えていくかを学べるようにする。 ・看護師や指導者の対象に対する意図的な関わりを学生にみせ、投げかけることで、看護師の支援方法の多様性や価値観を尊重する関わりがわかるようにする。

	・対象者への関わり・配慮			
継続看護について多角的な視点を持ち、考えを深めている。	<p>病棟の看護師・退院調整看護師の視点や他職種からの退院調整などの専門職からの視点を学び、多職種連携と看護師の役割が学ぶ。違う立場になった時に、継続看護はなにが必要かなどを考え、場や役割が違う時の看護師の役割の変化や特徴を捉えることが必要となる。切れ間ない看護の必要性や、生活が変化する対象にとっての看護の必要性を考え、体験することによって看護の多角的な視点を深める機会となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設間での看護の情報共有方法について 各施設での看護師の役割 各施設での看護の特徴と機能 実習施設以外からみた看護の役割 看護の対象と特徴 	各施設での看護の特徴・機能・対象から多角的な視点から継続看護・看護について理解する	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 看護記録 VII カンファレンス 面談 まとめ (Map) レポート 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の施設を利用している対象への同行では、施設間での情報交換や目標共有についての説明を行うことで、看看連携・継続看護の考えを深め、継続看護について理解できる場や発問を行う。 医療としての看護に関わりが無い場合でも、ケアやサポートの視点から対象に対する看護を考えられるようにする。 看護師や指導者の看護や対象を支える考え方を学生に伝えることで学生の視野が広がり、多角的に考えられるようにする。 カンファレンスで、実習の特徴や対象などからの学びを伝え、指導者・教員は不足している事のアドバイスや知識の確認を行い、学びを深めるようにする。

ii. 学生の動き

実習日	実習場所	ねらい	学生の動き
8:30	清水病院 地域支援医療室	<ul style="list-style-type: none"> 病院と地域・在宅療養をつなぐ地域支援医療室の役割りがわかる。 多職種連携の実際がわかる。 病棟以外や他職種からみる対象の理解・把握の方法を知り、連携時にどのような情報共有がされ、対象や家族のニーズに対応しているかわかる。 病院間での地域連携の実際を知る。 社会福祉や社会資源の活用や調整の実際を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域支援医療室の朝礼に参加し、話し合われる事業や要点などを理解し、自己の目標を伝え、実習同行に備える。 地域支援医療室の一室を借り、入退院センターの役割、地域連携クリニカルパス、社会福祉士から静岡市立清水病院の地域支援についての講義を受ける。 社会福祉士などの病棟訪問などに同行し、同行ケースの説明を受け、支援室からみた継続看護・医療や連携について体験・学ぶ。 待機中は、過去のケース記録などを参照し、継続看護・医療や連携を学ぶ。 家屋調査など、院外同行に機会があれば同行する。 入退院センターで、対象患者の同意が得られた場合、窓口と同席し、看護師と対象（家族）との関わりを学ぶ。
16:15	休憩は同行の状況により、適時、取る。		<p>カンファレンス 学校にて、「実習での学び～同行ケースから学んだこと～」を行う。</p>

②<血液浄化センター実習> 9時間×1日

i. 学習内容・方法と指導方法 9時間×1日

学習活動	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
対象が利用している社会資源の説明ができる。	事前学習で血液浄化センターについて調べる。対象が利用している社会資源を下記の内容で深める。対象の状況に応じて、変わっていく社会資源を法制度や保険制度の視点で深め、対象を中心に支えるケアや制度を包括的に理解する機会としたい。 ・対象の健康状態 ・施設の設置主体・目的・法制度・機能と役割 ・施設の対象者の特徴と業務内容	社会資源を法制度などから理解し、その人に必要なケアをマネジメントできる。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)	・事前学習を活用し、血液浄化センターについて調べ、役割がわかるような質問や資料を提示する。 ・看護師より、実際に対象が活用している社会福祉制度や、血液浄化センターの機能・役割について説明を受ける。 ・講義や看護の実際で、学びを関連する知識に基づいてまとめ、社会福祉制度や外来継続支援についての理解につなげていく。
対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる	血液浄化センターでは多職種があり、各職種が対象の生活を支えるべく、協働・連携している。同じ施設内・他施設内など地域で暮らす対象を支えるために、職種・施設の連携・協働がどのように行われているかを学ぶ機会としたい。 ・在宅看護に必要な連携機関 ・関連職種の役割、援助内容 ・病院・施設や地域住民間での連絡方法・連携の在り方 (連携シートや連絡ノートなど) ・病院・施設や地域住民間の目標共有方法と支援 ・対象を取り巻く地域や家庭の特性、生活の状態 ・多職種と看護師との関わりや、他職種からみた看護師像や、看護に対する思い	社会資源や地域の取り組みから生活を支える包括的な地域の支援がわかる。	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map)	・様々な職種が協働している血液浄化センターで、実際に看護師や臨床工学技士とともに対象の元へ同行し、関わりを見学する。看護師と専門職種の連携・協働の実際を説明する。 ・治療をしている対象の不安に対応し、身体・心理・社会の3側面が安心した生活を送れるように、どのように多職種が連携し、関わっているかを説明する。 ・連携シートや連絡ノートなどから、家族や他医療機関での情報交換や目標共有についての説明を行うことで、多職種連携・看看連携について考えを深められるようにする。
対象を主体としたニーズ・支援とその生活を支える看護について理	病院から自宅の両方で疾患と向き合いながら暮らしている対象に対する支援と看護について理解を深めていく機会にしたい。 その中で、対象が主体性とニーズをどのように看護をして支援しているのかを学ぶ機会としたい。	対象者の生活を主体とした看護のニーズ・支援や多様な価値観	・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス	・透析治療に通院する患者のベッドサイドへ行き、看護師や他職種が行う、対象の健康状態の把握や生活援助を、実際に行う。 ・利用者の、ニーズや問題点などを意識しながらかわられるよう、状況に応じて抱える問題や利用者の特徴などをカルテや

<p>解する。</p>	<p>そのためには、学生は疑問に感じたことなどはそのままにせず、積極的に看護師や職員に聞き、理解を深めることを学生に伝えてある。学生の疑問にヒントや答えなどの対応をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象が主体として考える看護 ・対象が在宅療養または在宅での生活を過ごすことに対する希望やニーズ ・対象の自己決定における看護師の役割 ・在宅看護における家族への影響 ・対象に対する指導技術（教育技術・相談技術） 	<p>についてわかる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・面談 ・まとめ (Map) 	<p>説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習学生が直接、対象と関わり、コミュニケーションを行うことで、対象のニーズや目的を対象側から理解できるようにする。そして、事業側の意図や周囲の思いも教えてもらうことで、「ニーズ」と「主体的」をどう考えていくかを学べるようにする。 ・看護師や指導者の対象に対する意図的な関わりを学生にみせ、投げかけることで、看護師の支援方法の多様性や価値観を尊重する関わりがわかるようにする。
<p>継続看護について多角的な視点を持ち、考えを深めている。</p>	<p>看護師や透析治療に関わる多職種専門職の視点を学び、透析治療・看護からみた看護師の役割が学ぶ。協働している職種から、または家族からの視点に立ち、看護の役割や継続看護はなにが必要かなどを考え、看護師の役割の変化や特徴を捉えることが必要となる。切れ間ない看護の必要性や、生活が変化する対象にとっての看護の必要性を考え、体験することによって看護の多角的な視点を深める機会となる。</p> <p>家族・施設（他施設など）・他専門職種からみた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護の情報共有方法について ・看護師の役割 ・看護の特徴と機能 ・看護の対象と特徴 	<p>各施設での看護の特徴・機能・対象から多角的な視点から継続看護・看護について理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map) ・レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護など他の看護・医療連携も活用している対象との関わりでは、施設間や家族との情報交換（連絡ノートなど）や目標共有についての説明を行うことで、看護連携・継続看護の考えを深める機会とする。また、継続看護について理解できる場や発問を行う。 ・看護師や指導者の看護や対象を支える考え方を学生に伝えることで学生の視野が広がり、多角的に考えられるようにする。 ・カンファレンスで、実習の特徴や対象などからの学びを伝え、指導者・教員は不足している事のアドバイスや知識の確認を行い、学びを深めるようにする。

ii. 学生の動き

実習日	実習場所	ねらい	学生の動き
8:15	清水病院 血液浄化センター	<ul style="list-style-type: none"> ・血液透析の原理と実際を知ることができる。 ・血液透析を受ける療養者とその家族の、 	<p>8:15 穿刺見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師長に挨拶をし、荷物は、ナースステーションのセンターテーブルにまとめて置かせていただく。

<p>きる。</p>	<p>行うために、必要な視点や専門的知識を知り、下記の内容で深める。生活状況やニーズに応じて、法・制度を使って、対象を中心に支えるケアマネジメントの構築を知る。日常の困りごとと必要な社会資源を繋げる視点を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の健康問題や困りごとの ・施設の設置主体・理念・法制度 ・施設の機能と役割 ・施設の対象者の特徴と業務内容 	<p>人に必要なケアをマネジメントできる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map) 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師や担当者より、実際に対象が活用している社会福祉制度や、障害者相談支援センター、居宅介護支援事業所の機能・役割について説明を受ける。 ・講義や看護の実際で、学びを関連する知識に基づいてまとめ、社会福祉制度や継続支援についての理解につなげていく。
<p>対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる</p>	<p>障害者相談支援センター・居宅介護支援事業所の各専門職が対象の生活を支えるために行っている協働・連携の実際を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントの視点とケアプラン構築方法 ・インフォーマルサービスを含むチームの目標共有方法、連携の在り方と連携方法の実際 ・対象を取り巻く地域や家庭の特性、生活状況の中から起こる問題の解決方法を知る ・多職種と看護師との関わりや、その人を中心とするチームから求められる看護師像をイメージする 	<p>社会資源や地域の取り組みから生活を支える包括的な地域の支援がわかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map) 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な職種が協働している障害者相談支援センター、居宅介護支援事業所で、実際に相談員、保健師等とともに対象の元へ同行し、見学する。 ・障害者相談支援センター、居宅介護支援事業所を必要としている、対象や家族のニーズに対応し、身体・心理・社会の3側面が安心した生活が送れるように、どのような視点でケアをプランニングするかを説明する。 ・家族や他機関との情報交換や目標共有についての説明を行うことで、ケアマネジメントについて考えを深められるようにする。
<p>対象を主体としたニーズ・支援とその生活を支える看護について理解する。</p>	<p>障害者相談支援センター、居宅介護支援事業所の看護職に求められる役割について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象の健康状態と生活状況の把握 ・対象の在宅療養や在宅生活に対する希望やニーズと目標設定 ・対象の自己決定における専門職の役割 ・家族支援に必要な専門職の役割 	<p>対象者の生活を主体とした看護のニーズ・支援や多様な価値観についてわかる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・看護記録 VII ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map) 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者相談支援センター、居宅介護支援事業所の職員に同行し、対象の生活状況の確認や健康状態の確認を行う。 ・利用者の、ニーズや問題点などを意識しながらかかわられるよう、状況に応じて抱える問題や利用者の特徴などを説明する。 ・学生が対象のニーズや目的を対象者の視点でケアプランや相談内容を理解できように関わる。施設の理念や周囲の思いも教えてもらうことで、「相談者のニーズ」をどう考えていくかを学べるようにする。 ・担当者の対象に対する意図的な関わりを学生にみせ、投げかけることで、支援方法の多様性や価値観を尊重する関わりがわかるようにする。

対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる	る、「社会資源」「社会資源と地域住民との取り組み」「多職種連携を協働」「対象の主体性とニーズ」「看護の役割」「継続看護」について、事前学習や実習での学び・事後学習から「まとめ (Map)」や発表で表現し、自己の学びとグループメンバーの学びを共有させたい。共同学習を行うことによって、対象の状況やニーズに応じた看護・地域にある様々な協働についての理解ができるようしたい。対象を中心に支えるケアや制度をグループメンバーとの共同学習で包括的に理解していく。	社会資源や地域の取り組みから生活を支える包括的な地域の支援がわかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンス ・面談 ・まとめ (Map) 	<p>については発問を行い、学びを想起させる。「私の考える地域・在宅看護論は～である」のテーマでまとめ (Map・プロセスチャート) の作成が行えるように適時、実習の体験などからのアドバイスなどを行う。</p>
対象を主体としたニーズ・支援と生活を支える看護について理解する。	対象者の生活を主体としたニーズ・支援や多様な価値観についてわかる			
継続看護について多角的な視点を持ち、考えを深めている。	各施設での看護の特徴・機能・対象から多角的な視点から継続看護・看護について理解する			

ii. 学生の動き

実習日	実習場所	学生の動き
8:30	学校 まとめ	<p>学校に実習開始時間までに集合。 出欠席確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で出会ったことなどを、1時間ほどミーティングを行う。 ・「まとめ (Map)」の作成を行う。…A3用紙を使い作成。資料は、実習要綱参照。 ・13:00頃より「まとめ (Map)」の発表を行い、意見交換を行う。
14:15		発表後、適時、追加修正を行う。

学習活動	具体的な評価規準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一步努力を要する
対象が利用している社会資源の説明が出来る。	社会資源を法制度などから理解し、その人に必要なケアをマネジメントできる。	対象理解 探求心	事前学習 在宅看護記録 面談	対象が利用している社会資源の法制度・根拠を説明でき、状況の変化に応じて必要な社会資源を表現している。(20)	対象が利用している社会資源を制度・根拠を明確し必要な社会資源を説明している。(10)	対象が利用している社会資源を一部説明できる。(7)	対象が利用している社会資源が提示できる。(1)
対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから目標を共有する多職種連携や協働がわかる。	社会資源や地域の取り組みから生活を支える包括的な地域の支援がわかる。	対象理解 探求心	事前学習 在宅看護記録 カンファレンス	対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから、多職種連携の共同目標と協働が対象の生活を支えることがわかる。(30)	対象が利用している社会資源と地域住民の取り組みから、多職種連携や協働がわかる。(20)	対象が利用している社会資源から多職種連携や協働がわかる(10)	社会資源から多職種連携がわかる。(5)
対象を主体としたニーズ・支援とその生活を支える看護について理解する。	対象者の生活を主体とした看護のニーズ・支援や多様な価値観の尊重についてわかる。	対象理解 実践力 倫理観	在宅看護記録 カンファレンス 面談	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし、共同目標の中で生活を支える看護の方向性を表現している。(30)	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や多様な価値観をアセスメントし看護の方向性を表現している。(20)	対象の特性と対象を主体としたニーズ・必要な支援や価値観をアセスメントしている。(7)	利用者または家族のどちらかの特性・ニーズ・必要な支援がわかる(1)
継続看護について多角的な視点を持ち、考えを深めている。	各施設での看護の特徴・機能から多角的な視点で地域での継続看護・看護について理解する。	調整力 探求心	在宅看護記録 カンファレンス レポート 面談	各施設での看護の特徴・機能や対象から多角的な視点で地域における継続看護・看護の役割を理解し、発展的に表現している。(20)	各施設での看護の特徴・機能や対象から、課題に対して生活者・他職種や看護師などの視点から継続看護・看護の役割について表現している。(15)	看護の特徴・機能や対象から地域における継続看護・看護の役割についての中心となる考えをつかむことができる。(10)	対象から地域における継続看護または看護の役割について状況や特徴を説明することができる。(5)
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する	医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている	倫理観	日常行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る為に適切な行動をとり、仲間の模範となりチームをけん引している。(15)	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている。	看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るという点で自己の行動を振り返っている。(5)	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している。(0)

実習指導者助言

欠課時間数
() 時間 / 90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

実習指導者サイン

担当教員サイン